



博物館を活用した夏休み自由研究プロジェクト

大月にも空襲があった！ この夏、戦争遺跡を訪ねてみよう。



大月市郷土資料館

1945（昭和20）年8月13日の8時20分、私たちの住む大月は、アメリカ軍による空襲を受けました。それは、日本政府が日本軍隊の無条件降伏を定めた「ポツダム宣言」を受け入れ、1931（昭和6）年の満州事変から15年間も続いた戦争が終了するわずか2日前のことでした。

空襲というと、B29大型爆撃機を思い浮かべる人が多いと思いますが、大月を空襲したのは、滑走路のついた軍艦（航空母艦）から飛び立った艦載機と呼ばれる長さ約10m、翼の幅15mあまりの小さな飛行機でした。

数十機の艦載機が来襲し、大月市街地を中心に、北は七保町葛野、東は猿橋町幡野、西は都留市川茂、南は沢井地区の広い範囲に、125kg～1000kgまでの大きささまざまな爆弾を80発以上も投下し、機銃による攻撃も行いました。



この空襲により死亡した人は61名。最年少は9歳の小学校3年生。爆風で倒壊した家屋の下敷きで亡くなりました。都留高等女学校では、登校していた14歳から17歳までの女学生20名が亡くなり、興亜航空防空壕では学徒動員されていた13歳から17歳までの都留中生9名が死亡しました。家屋の被害は、全壊26棟、半壊14棟、三分の一以下損壊が106棟。そして倉庫全壊が2棟でした。

終戦から75年、街の風景もすっかり変わってしまいましたが、戦争に関連する遺跡がいくつかまだ残されています。戦後75年の節目のこの夏、戦争遺跡を実際に訪れ、見たり触れたりする中で、犠牲になられた人たちに思いを寄せ、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考えるきっかけとしましょう。

①県立都留高等女学校（大月短期大学）



きた女学生、合わせて20名が亡くなりました。他に教師2名、用務員夫婦も亡くなっています。

都留高等女学校では、物資投下用の小さな落下傘を製造する学校工場として、女学生たちが作業に従事していました。

校舎正面玄関東側に爆弾が落ち、警戒警報発令に伴い学校防護団員として早朝より登校していた女学生、作業に従事するために登校して

②遺髪塚（行願寺墓地内）

都留高女で亡くなった女学生たちの遺髪を納めた塚が行願寺墓地内にあります。

ちょうど都留高女を見下ろす場所にあり、供養碑の横には被災状況と亡くなった女学生・教師・用務員の24名の氏名が刻まれている石碑が建っています。



③防空監視哨（むすび山山頂）



ことができます。大月には、この他に七保と笹子にも設置されていました。

大月市立中央病院裏のむすび山山頂には、飛来する航空機を監視し、その情報を警察に報告する防空監視哨が置かれていました。

現在も跡地には、航空機の爆音を聞き取るための直径5m、深さ1.5mほどの石垣積み

④浅利防空壕（県道512号線浅利入口）

「栄月製菓」の前を浅利橋を下りていく県道の南側の崖には、柱状節理の下にできた横穴がいくつもあり、防空壕として利用されていました。

防空壕に落ちた爆弾で、勤労動員先の興亜航空から避難してきた9名の都留中生が亡くなりました。



⑤興亜航空工場（大月駅北側）



大月駅北側の広大な空き地には、「興亜航空」があり、海軍の零式輸送機の翼を製造していました。また、日本の航空戦力の見積もりを米軍に見誤らせるため、木製のおとり飛行機も造っていました。

都留中や都留高女の生徒たちが学徒勤労動員で作業に従事させられていました。

⑥平和祈願の石（駒橋厄王山境内）

強瀬川（桂川）に落ちた爆弾によって吹き飛ばされてきた大きな石が、厄王山近くに落下しました。

幸いにして地域の住民には何の被害もなく、これを厄王大権現の不思議な力によるものと感謝し、この石を「平和祈願の石」と名づけて境内に安置しました。

碑文には、石の重さは1.5トン、吹き上げられた高さは100mあまりとあります。

